

関東地方整備局同時発表

平成27年8月31日
道路局 国道・防災課

圏央道の開通により、
都心経由の交通の割合が約6割から約2割に減少、
観光や企業活動が活性化するなど、ストック効果[※]が発現
～圏央道（神崎IC～大栄JCT）10kmの開通によるストック効果（開通1ヵ月後）～

標記について、別紙のとおり発表されましたので、お知らせします。

なお、詳細につきましては、関東地方整備局、東日本高速道路株式会社の問い合わせ先におたずね願います。

※ストック効果：整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期的に得られる効果

【問い合わせ先】

国土交通省 道路局 国道・防災課 企画専門官 依田 秀則
TEL：(03) 5253-8111（内線37832）
直通 03-5253-8492 FAX：03-5253-1620

国土交通省関東地方整備局 常総国道事務所 副所長 吉田 武史
計画課長 佐藤 潤
TEL：029-826-2040（代表）

東日本高速道路株式会社【報道関係専用】関東支社広報課
TEL：048-631-0222



つながる。まわる。圏央道。

圏央道(神崎IC~大栄JCT)が開通しました



— 記者発表資料 —

国土交通省
東日本高速道路株式会社



圏央道の開通により、
都心経由の交通の割合が約6割から約2割に減少、
観光や企業活動が活性化するなど、ストック効果*が発現

～圏央道(神崎IC~大栄JCT)10kmの開通によるストック効果(開通1ヵ月後)～

※ストック効果：整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期的に得られる効果

〈主なストック効果〉

○ 都心経由から圏央道経由への転換

宮野木JCTとつくばJCTの間で、都心を経由する交通の割合が約6割から約2割に減少

○ 沿線企業からの輸送時間が短縮され、企業活動が効率化

成田空港からつくば市までの輸送時間が約30分短縮

○ 地域の観光・レジャー需要にも効果(地域経済の好循環)

沿線観光施設では、近隣商業施設と連携し、広範囲の集客キャンペーンを実施

沿線レジャー施設へのアクセス性が向上

○ 一般道から圏央道へ交通が転換し、周辺の一般道の渋滞が緩和

国道408号(土屋交差点)の交通量 開通前41,400台/日→開通後38,800台/日 6%減少

国道408号(土屋交差点)の渋滞長 開通前540m→開通後0m

さらに11月末までに東名高速から東北道が圏央道でつながります。

平成27年11月末までに圏央道(桶川北本IC~白岡菖蒲IC間)が開通します。

- ・広域ネットワークが形成され、北関東方面から湘南方面へのアクセスが強化
- ・沿線に立地する物流施設などの利便性が高まり、企業活動をさらに支援するなどの効果が見込まれます。

発表記者クラブ

国土交通省記者会 国土交通省建設専門紙記者会、国土交通省交通運輸記者会
埼玉県政記者クラブ、茨城県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会
千葉県政記者会、都庁記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、八王子記者クラブ、立川市政記者クラブ
青梅・西多摩記者クラブ、横浜市政記者会、横浜ラジオ・テレビ記者会、相模原記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 常総国道事務所 電話: 029-826-2040 (代表)

副所長 吉田 武史 計画課長 佐藤 潤

東日本高速道路株式会社

【報道関係専用】 関東支社広報課 電話: 048-631-0222

【お客さま窓口】 NEXCO東日本お客さまセンター 電話: 0570-024-024

PHS・IP電話のお客さま 電話: 03-5338-7524

効果① 都心経由から圏央道経由への転換

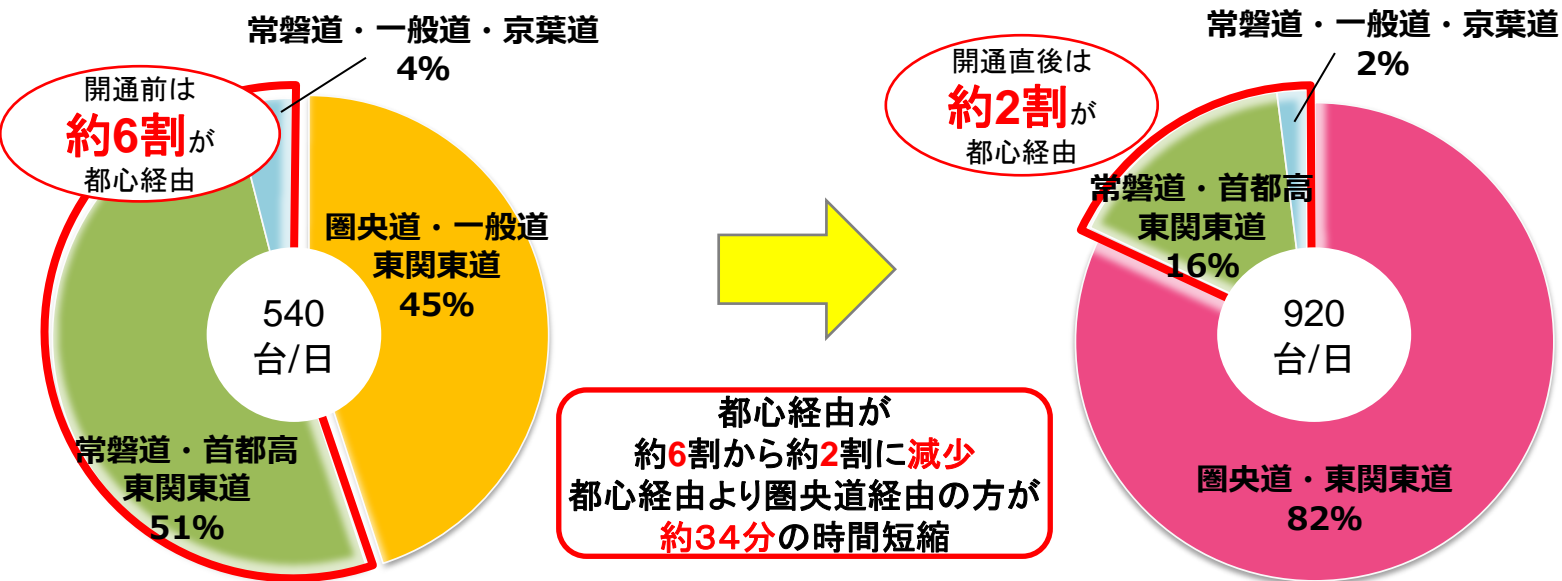
●つくばJCT～宮野木JCT間を移動する広域交通では、都心経由から圏央道経由への経路転換が図られ、都心経由の交通の割合が約6割から約2割に減少しました。



■つくばJCT～宮野木JCT間の利用経路〈全車〉

【開通前】

【開通後】



※経路について

- 常磐道－首都高－東関東道を經由
- 常磐道－外かん(三郷南IC)－一般道－京葉道(船橋IC・原木IC)を經由
- 圏央道(稲敷IC・稲敷東IC・神崎IC)－一般道－東関東道(大栄IC・成田IC・富里IC・酒々井IC)を經由
- 圏央道－東関東道を經由

常磐道・首都高・東関東道経路の場合の所要時間: 92分

圏央道・東関東道経路の場合の所要時間: 58分

※所要時間: H22年道路交通センサスの混雑時旅行速度より算出。

なお、稲敷IC～大栄JCTは、規制速度(70km/h)で算出。

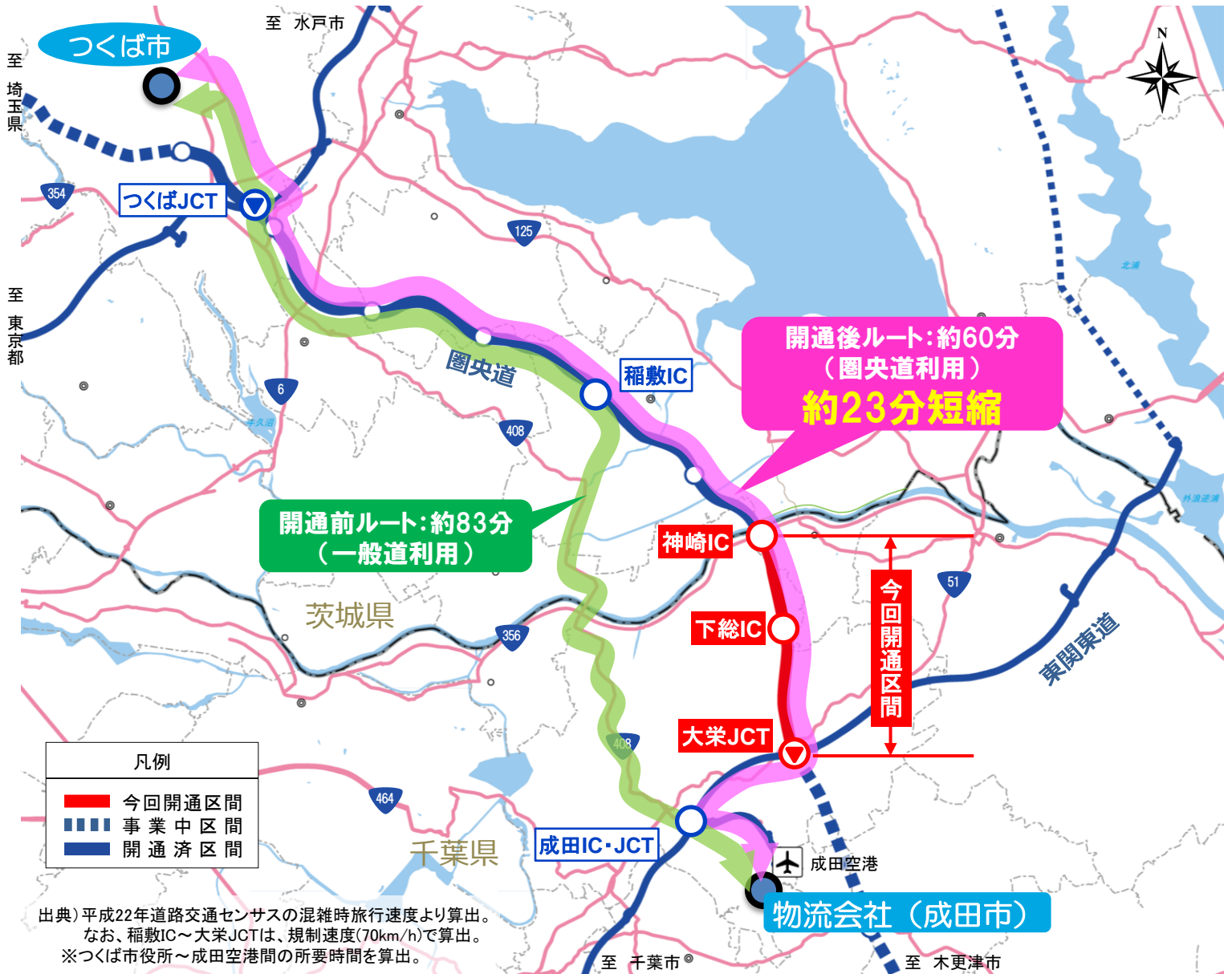
開通前: H26.6の平日のETCログデータより作成

開通後: H27.6.8(月)～H27.6.12(金)のETCログデータより作成

効果② 企業活動の効率化 ～時間短縮効果～

- 圏央道の開通により、成田空港からつくば市の所要時間が約83分から約60分に短縮。
- 沿線企業では、輸送時間の短縮を実感頂いています。

企業活動に貢献



沿線に立地する企業の声



物流会社関係者
(成田市)

- つくば方面に自動車製品を運ぶ際、開通前は、国道408号を利用していました。開通後は、圏央道を利用しており、**所要時間が約30分短縮**しました。
- 一般道の走行距離が短くなり、運転時間も短縮され、**ドライバーの負担が減少**しました。

効果③ 地域経済の好循環 ～観光需要の拡大～

- 沿線観光施設では、近隣商業施設と連携し、圏央道を利用した広範囲の集客キャンペーンを実施。
- 沿線ゴルフ場では、一般道を利用するルートから、最寄りのICまで圏央道を利用することが可能となり、アクセス性が向上。

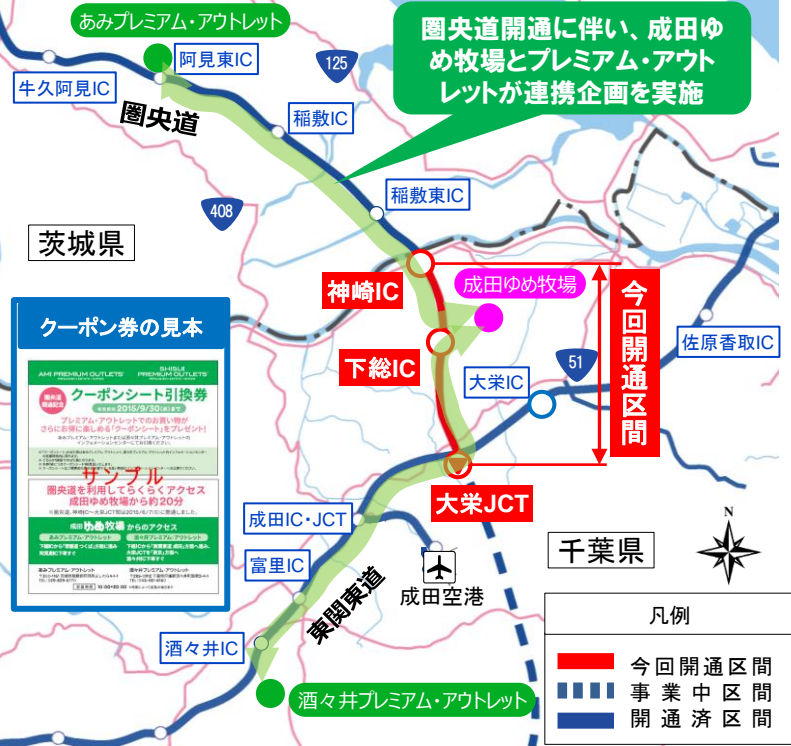
地域の観光・レジャー施設間の連携が強化



成田ゆめ牧場
関係者
(成田市)

- ・常磐道と東関東道がつながり、お客様に足を運んで頂きやすくなりました。お客様からは、「**圏央道が開通して、来やすくなった。**」との声を頂いています。
- ・圏央道の開通により、各観光施設間の移動が便利になりました。現在は、**入場者にあみ及び酒々井プレミアム・アウトレット**で使用できる**割引クーポン券**を配布しており、**圏央道開通キャンペーン**を実施しています。

出典) 平成27年7月 ヒアリング調査 (常総国道事務所調べ)



沿線レジャー施設へのアクセス性が向上

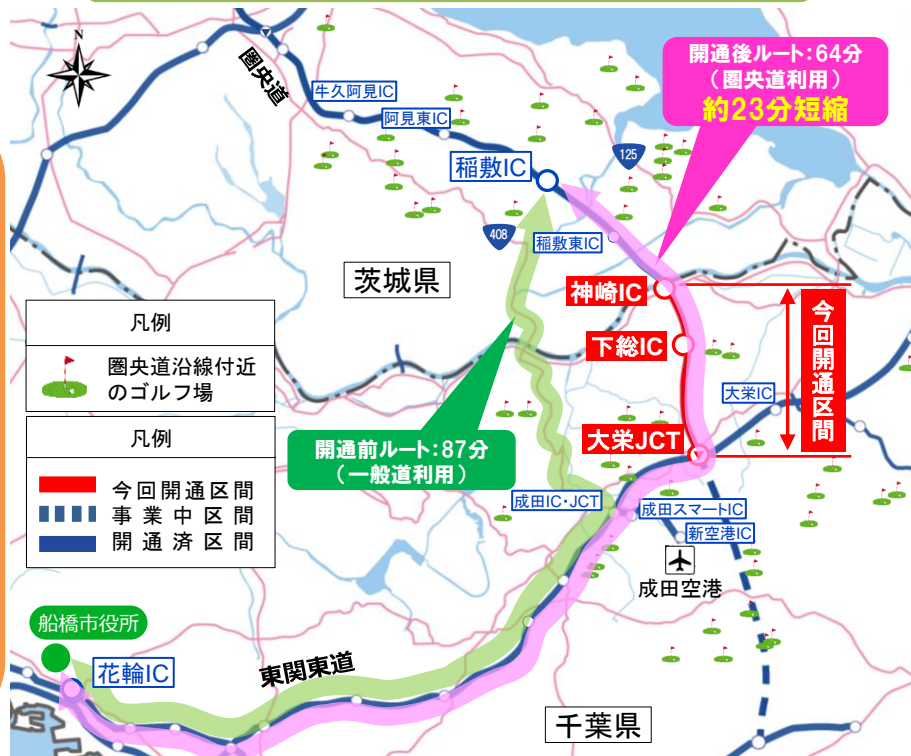
圏央道沿線の一部のゴルフ場では、開通キャンペーンを実施



ゴルフ場
関係者
(稲敷市)

- ・開通前は、成田ICから一般道を利用するルートを案内していました。開通後は、稲敷ICまで圏央道を利用して来て頂いており、開通前に比べて、**約20分程度、所要時間が短縮**したと思います。
- ・圏央道開通キャンペーンとして、特別料金のプランを用意しており、お客様に好評です。

出典) 平成27年8月
ヒアリング調査 (常総国道事務所調べ)



出典) 所要時間: 平成22年道路交通センサスの混雑時旅行速度より算出。なお、稲敷IC～大栄JCTは、規制速度(70km/h)で算出。
※船橋市役所～稲敷IC間の所要時間を算出。

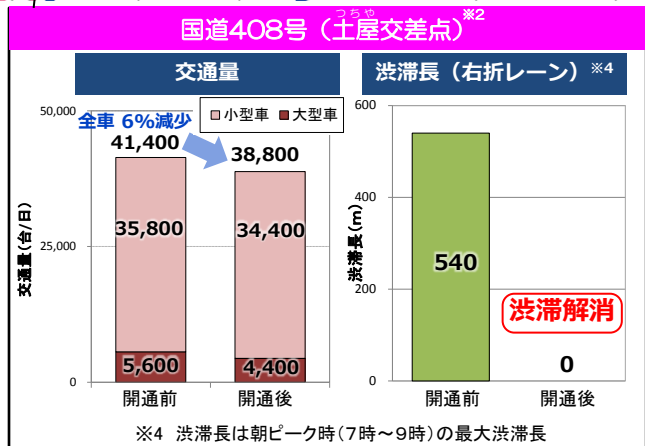
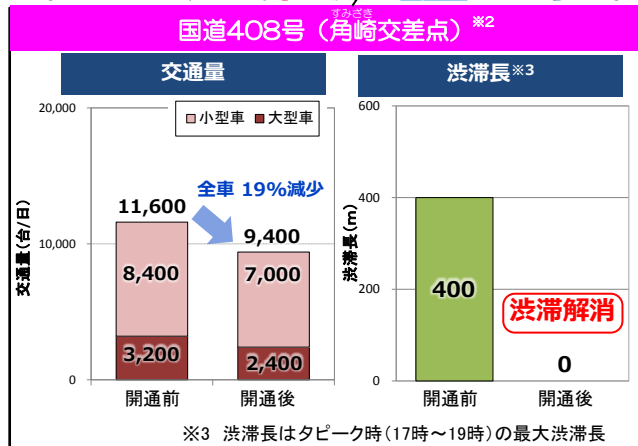
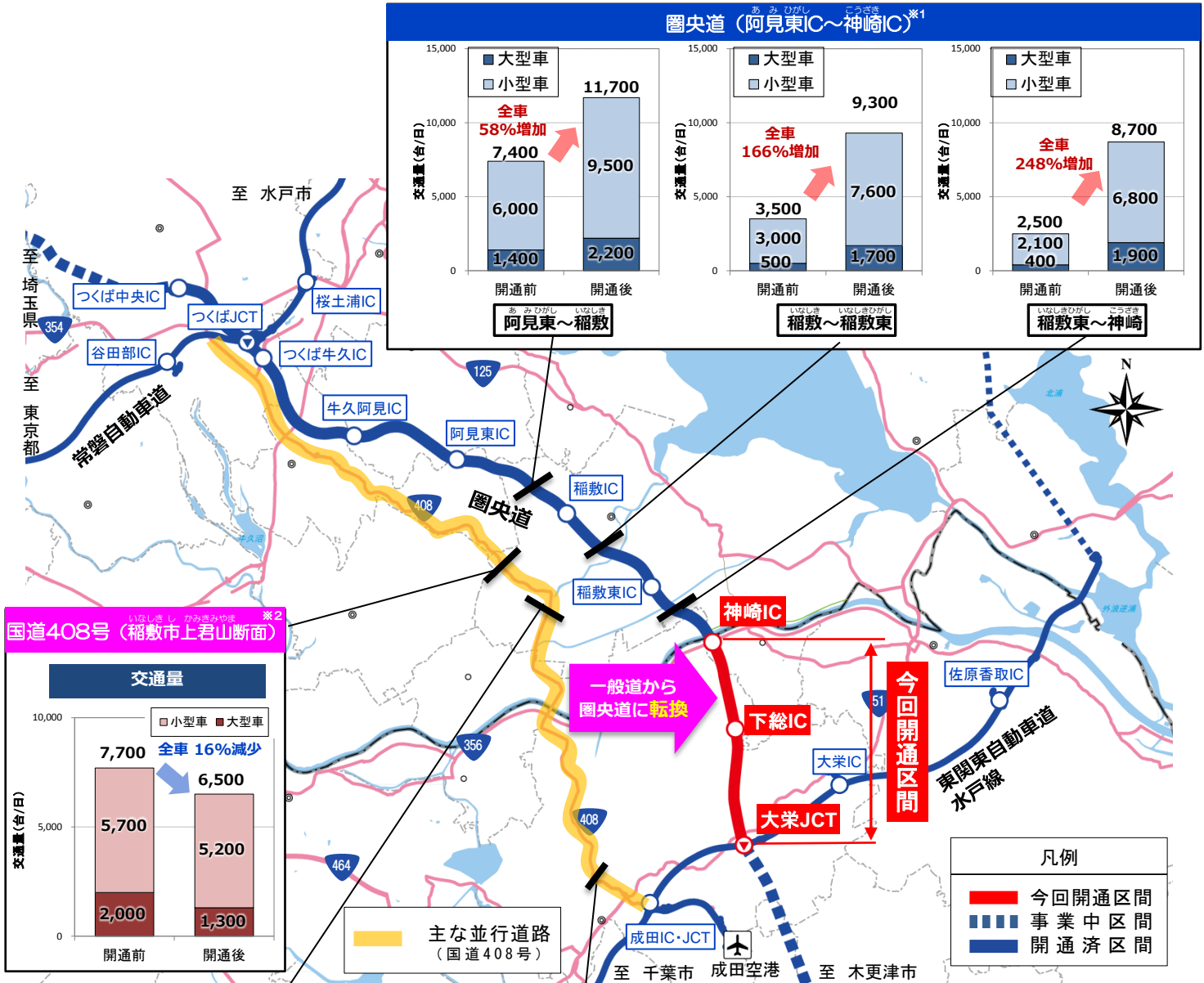
ゴルフ場: GoogleMAPより、圏央道(牛久阿見IC～下総IC)、東関東道(成田IC～大栄IC)、新空港道(成田スマートIC～新空港IC)から半径約10km以内のゴルフ場を記載

効果④ 地域交通状況の改善

●開通区間に並行する国道408号では、圏央道に交通量が転換。

- 国道408号（土屋交差点）の交通量：41,400台/日→38,800台/日 [6%減]
- 国道408号（角崎交差点）の交通量：11,600台/日→9,400台/日 [19%減]
- 国道408号（稲敷市上君山断面）の交通量：7,700台/日→6,500台/日 [16%減]

一般道から、圏央道へ交通が転換。周辺道路の渋滞が緩和



※1 出典) NEXCOデータ

開通前: 平成26年6月9日(月)～7月8日(火)の日交通量の平均値
開通後: 平成27年6月8日(月)～7月7日(火)の日交通量の平均値

※2 出典) 国土交通省データ(交通量調査)

開通前: 平成26年11月19日(水) 7時～翌7時の日交通量
開通後: 平成27年 7月 8日(水) 7時～翌7時の日交通量

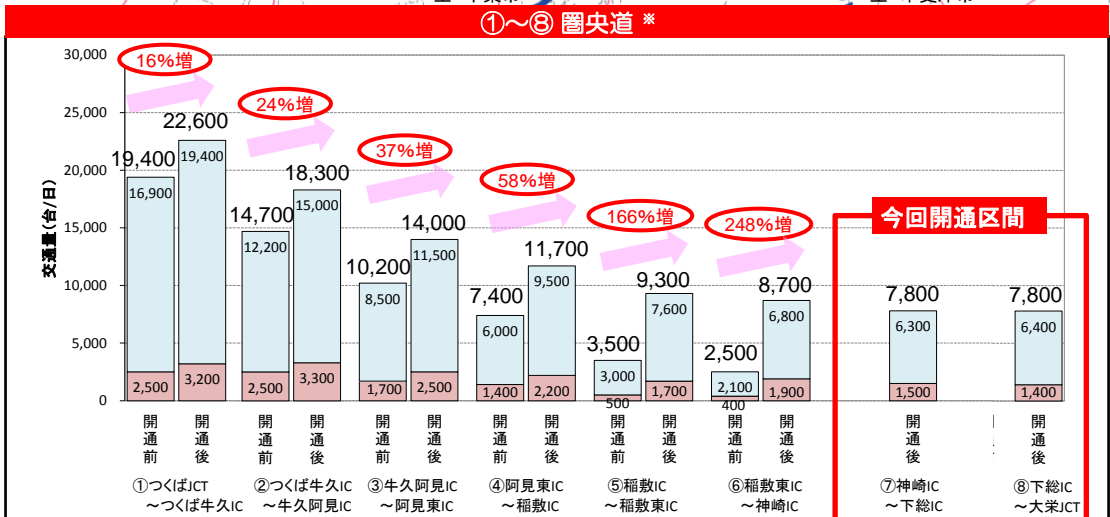
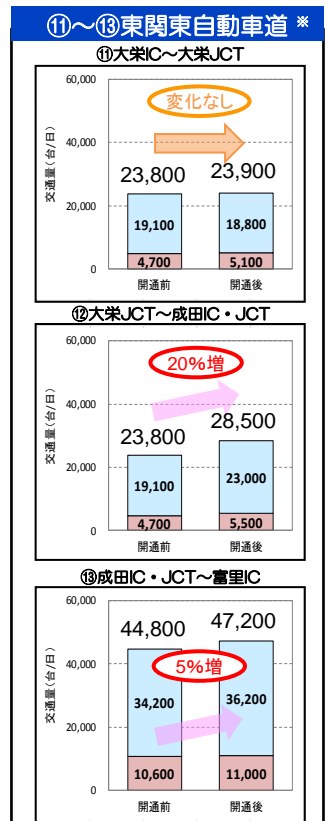
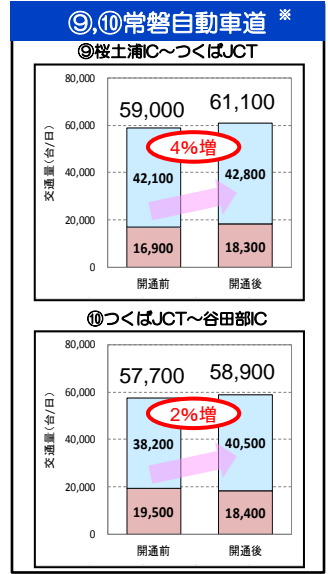
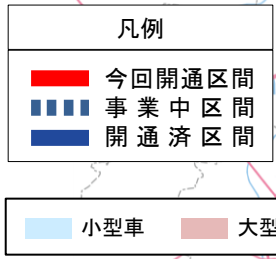
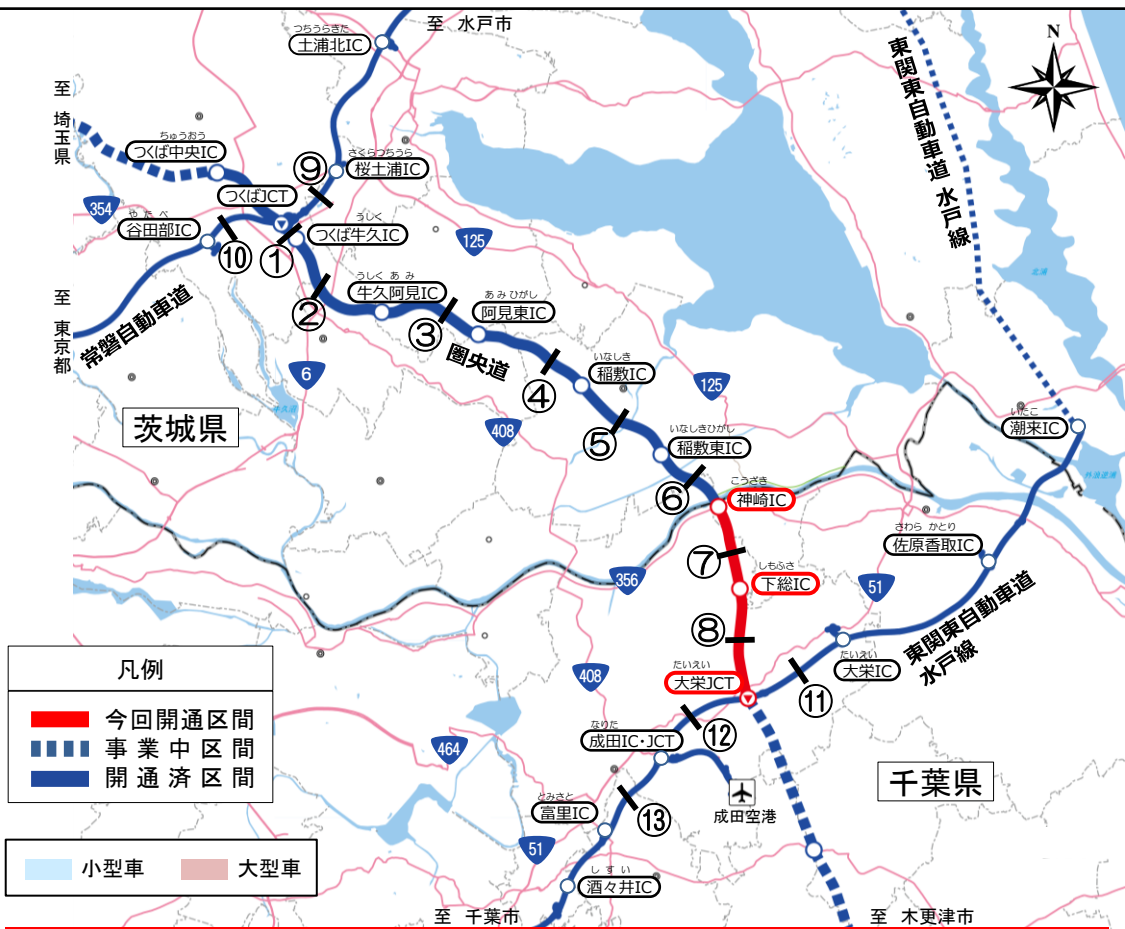
参考① 開通後の交通状況

● 圏央道の開通後の日交通量^{※1}は、平均7,800台/日。

圏央道（神崎IC～下総IC間）：7,800台/日
 圏央道（下総IC～大栄JCT間）：7,800台/日

● これまで開通していたつくばJCT～神崎IC間の交通量は、対前年同月比較で増加。常磐道、東関東道の交通量^{※1}は、対前年同月比較で増加。

圏央道（稲敷東IC～神崎IC間）：2,500台/日→8,700台/日[248%増]
 常磐道（桜土浦IC～つくばJCT間）：59,000台/日→61,100台/日[4%増]
 常磐道（つくばJCT～谷田部IC間）：57,700台/日→58,900台/日[2%増]
 東関東道（大栄IC～大栄JCT間）：23,800台/日→23,900台/日[変化なし]
 東関東道（大栄JCT～成田IC・JCT間）：23,800台/日→28,500台/日[20%増]

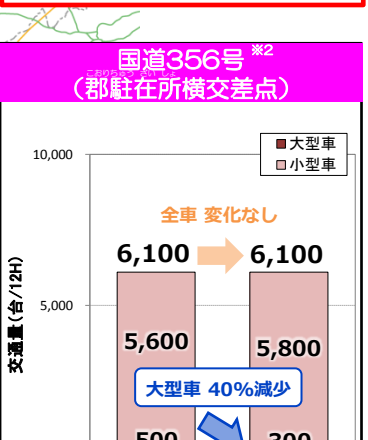
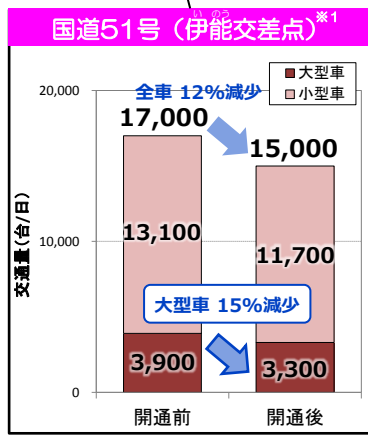
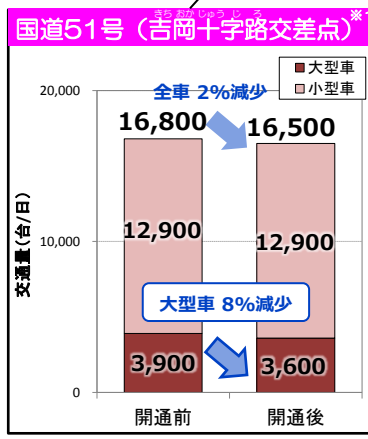
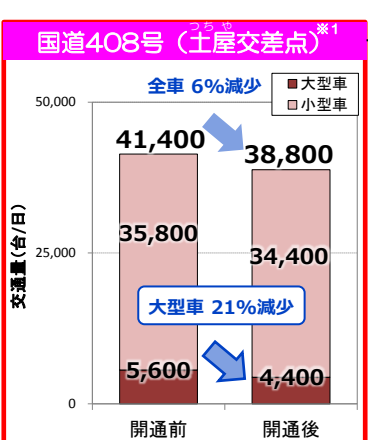
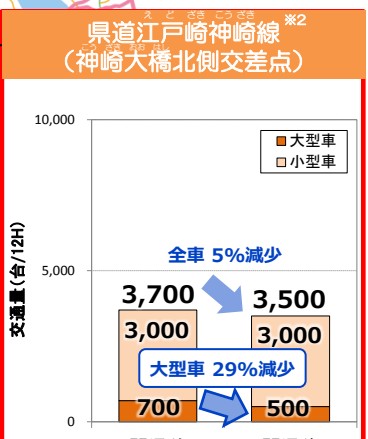
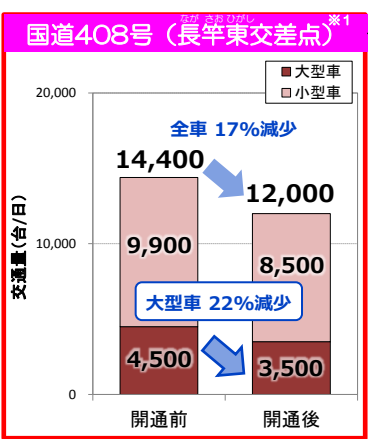
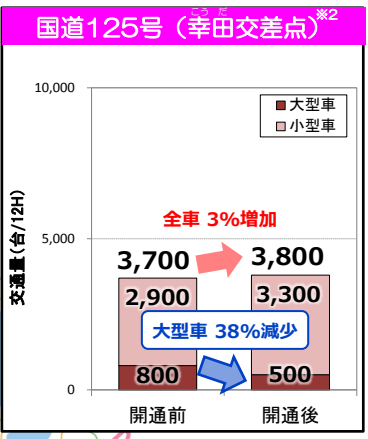
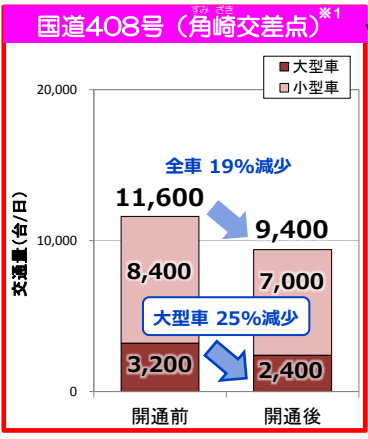
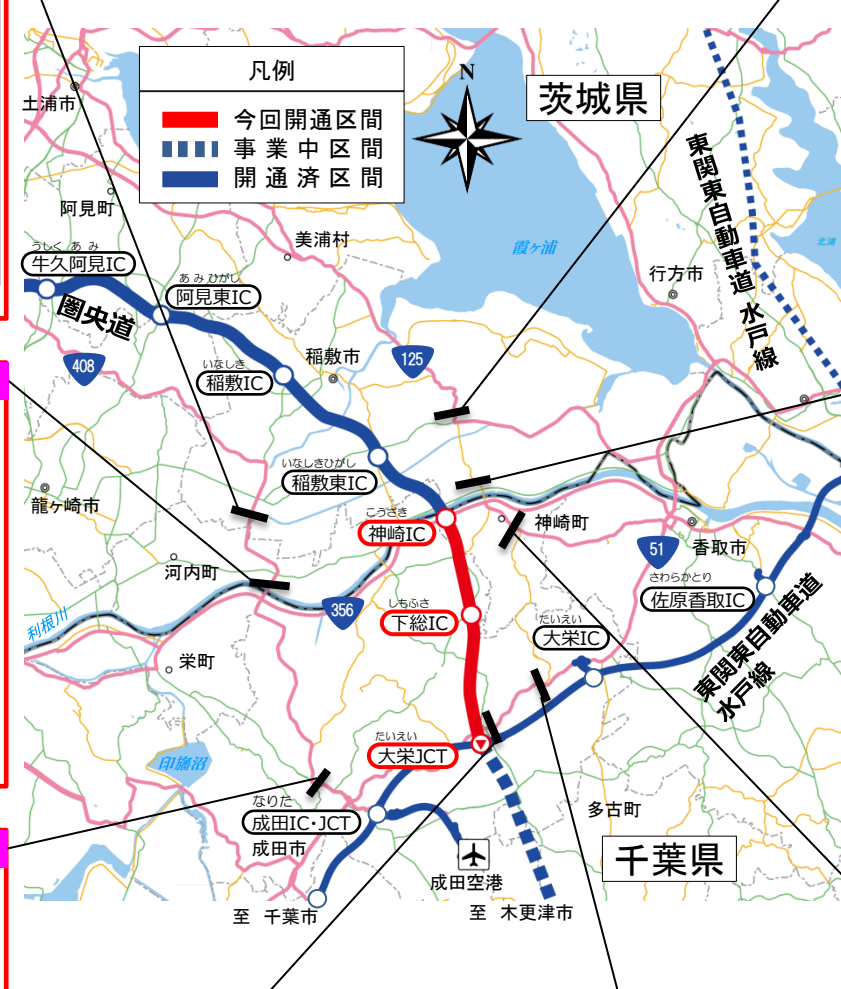


※ 出典) NEXCOデータ
 開通前: 平成26年6月9日(月)～7月8日(火)の日交通量の平均値
 開通後: 平成27年6月8日(月)～7月7日(火)の日交通量の平均値

参考② 開通後の交通状況

● 並行する一般道の交通量が圏央道へ転換。

国道408号 (角崎交差点) <small>すみざき</small>	: 11,600台/日 → 9,400台/日 [19%減]
国道408号 (長竿東交差点) <small>ながさおひがし</small>	: 14,400台/日 → 12,000台/日 [17%減]
国道408号 (土屋交差点) <small>つちや</small>	: 41,400台/日 → 38,800台/日 [6%減]
県道江戸崎神崎線 (神崎大橋北側交差点) <small>えとさきこうさき こうさきおおはし</small>	: 3,700台/12H → 3,500台/12H [5%減]



※1 出典) 国土交通省データ (交通量調査)
開通前: 平成26年11月19日(水)7時~翌7時の日交通量
開通後: 平成27年 7月 8日(水)7時~翌7時の日交通量

※2 出典) 国土交通省データ (交通量調査)
開通前: 平成26年11月19日(水)7時~19時の12時間交通量
開通後: 平成27年 7月 8日(水)7時~19時の12時間交通量

圏央道開通区間概要

● 首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、首都圏の道路交通の円滑化、沿線都市間の連絡強化等を目的とした、都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路です。現在までに約230kmが開通しています。

● 今回開通区間の概要

路線名：一般国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

○開通区間：神崎IC（千葉県香取郡神崎町松崎）～大栄JCT（千葉県成田市吉岡）

○開通日：平成27年6月7日（日）17時

○延長：9.7km

○車線数：暫定2車線

○開通IC（アクセス道路）：下総IC（(主)成田下総線）

今回開通区間の位置図

